



# HYCニュース

NPO法人葉山ヨットクラブ レース委員会

## 2012年第3回定例レース委員会 議事録

議事録作成 田口委員

9月22日 10:00-12:30 於:クラブルーム

出席者 犬飼委員長、真野副委員長、野原委員、田口委員、伊神アドバイザー

### 1. レース結果表記について

趣旨:なるべくレース結果の情報を提供するようにする。使用文言の統一。

見解:JSAF(RMP)の規定を参考にし、当フリートとして、下記の文言を用いる。

DNC:出艇申告するもレース海面に来ない。

DNS:スタートしてない。

OCS:リコール解消していない。

DNF:フィニッシュしてない。

RAF:フィニッシュ後リタイア

DSQ:失格

RDG:抗議処分

No Entry:不参加

RET:タイムリミットまでに棄権を申告

次回以降採用。

No Entry は年間成績計算上使用し、表記に代えて、月例レガッタの成績表には艇名を表示しないこととする。

### 2. レース日程・内容の再確認

10月7日えぼし回航レースを、リビエラ(\*参加費が想定以上に高額であり)と同日開催となるので変更しソーセージ2レースとする。G1レースとする。(年間4回のG1レース)

9時:艇長会議 10:30スタート コミ:ボス

11月4日フレンドシップレガッタが、調整つかず、「えぼし回航」G1レースとする。

9時:艇長会議 10:00スタート コミッティ:トリトン

(スケジュールが合わない為)合同開催では、なくなりました。

HYC有志で、10/14HMYCのフレンドシップに 参加するよう告知

### 3. 外来艇のTCFについて

背景:ヤマハやNSTチームからの疑問「同じ仕様の船なのになぜ黄/赤でTCFが異なるか?

見解:HYCのレースの一部は親睦レース的なものもあり、艇種+チームを加味しての変動TCFである。

議論：ヤマハ艇は、従来、色(黄/赤)でチームが固定的に識別されていると思っていたが、実際は毎回メンバーが異なっているとのこと！！ 当方の趣旨とズレている。

結論：ヤマハは、エントリー時、チーム名と色を申告させ、従来通り変動TCFを適用する。NSTは、管理者名で識別する。(クルーは、毎回変わるらしい！)

一応、従来、どのチームが黄/赤だったのか、調査する必要がある。成績表の加筆も若干必要。

\* 外来艇の成績は、要注意！ あくまでもHYCフリートの振興を妨げないことが原則！

#### 4. 年間レース集計等の簡素化について

趣旨：忘年会レガッタ後忘年会までの時間が限られているので、出来るだけ簡素化を図る。

##### 議論1：不参加艇の加点ポイント

現在、年間の最多参加レースのフィニッシュ艇数+2としていたため、忘年レガッタ終了時まで。加点ポイントが定まらなかったが、本年は最多参加レース+1で、葉山初島レガッタ22隻+1で23Pと定める。

意見：不参加の加点ポイントが余りにも厳しい！！ペナルティに近い！！

当該レースの+2では駄目か？

見解：荒天・厳冬の参加が少ないレースでの不参加ポイントが甘くなり、過酷レースへの参加意欲を減退させる可能性あり。よって却下

(当該不参加レースを捨てレースにしない作戦が成り立つ！)

不参加レースを捨てレースにする場合、どれも等価で良い

##### 議論2：コミッティのポイント

現在、当該コミッティの年間平均成績ポイントと、当該レースの全参加艇の平均成績ポイントで少ないポイントを選択する方式となっている。

このため、忘年レガッタ終了時まで、確定しない。

さらに、最近は、コミッティでもレースに参加するチームもあり、その場合は、無条件に、その成績が入る。(最下位でもそのまま！)

意見：コミッティチームの前年の平均ポイントを採用すれば！

見解：前年度1レースしか参加しておらず振るわぬ成績の場合、コミッティを担当するメリットが無い！

見解：コミッティはフリート会員の義務であり、仕方がない。？

意見：一律、全平均とし、または5ポイント等、全部同じポイントを採用する！

意見：年間12回しかレースが無く、12艇しかそれが適用されない！

若干不公平になる公算もある・・・

ここまでの結論 いずれにしても、実施は来年1月からのレースとし、不参加艇のポイントのみ、今年の葉山初島レースを基準とし、不参加艇のポイントを、「23ポイント」と定める。

#### 5. 親睦レースへの協力

趣旨：従来クルージング往路をレース的にしていた経緯もあり、検討してほしい。

結論：レース委員会の所轄外のことであり、行事担当理事から、正式依頼があったら検討する。

6. 今年のレースを振り返って

意見：コミッティのミスが多いので、コミッティの持ち回りを辞め、レース委員とリビエラ援助で回したら？

見解：コミッティの経験が、ヨットレースの知識啓蒙に一役買っており、その効果も見捨てられない。ミスの防止は、今後も努力が必要。

意見：かぐや姫レガッタで、女装者(艇)に賞が奪われたのは、女性参加者に失礼では！

見解：開催時のゴタゴタおよびパソコンの予期せぬ故障もあり、当時、臨機応変に対応出来なかった状況はあるが、本来、参加女性が表彰されるように配慮すべきである。

女性の参加を義務付けたレースは、ユニークでありHYCとして今後もあるべきである。

(かつて、女性のスキッパーからの要望で開催することとなっらしい)

次年度のかぐや姫レガッタ帆走指示書に、本趣旨を明記することとする。

明記=表彰対象は女性スキッパー艇に限ることとする。非女性スキッパー艇は5%のペナルティが加算され、女装に拠っても表彰対象としない。

意見：HYCレースの今後の振興策は？

見解：HYCに属していて、レースに参加しない艇への調査が必要。

TCFへの不満か？ 抗議への嫌悪感か？ 人手不足か？

不参加の背景について、レース委員が共通認識を持ち、対策を考えることが求められる。

意見：かつて調査していたレース中も担保される賠償責任保険加入状況が気になる！

見解：先の初島レースで、一応実際されてる。今後も継続すべし。

以上